

岩槻地区担当の渡邊です。

今回は葉面散布用液肥「ハーモザイム」のご紹介と、今年度の枝豆施用試験結果についてご報告いたします。

ハーモザイムは植物由来の葉面散布用液肥で、植物由来の成分が作物に活力を与え、健全な開花、結実、果実の肥大を促進し、収量増に貢献する資材です。ハーモザイムの作用としましては、植物の細胞分裂に必須である植物ホルモン“サイトカイニン”の生産が活性化され、受粉直後の急激な細胞分裂をサポートします。

ハーモザイムの特徴をまとめますと、①着果率の向上、果実の育成促進 ②花とびと落花を軽減 ③根張りがよくなり、収穫期間が長くなる ④天候、物理的ストレスの悪影響を軽減し、成り疲れに対して強くなる ⑤1株当たりの果実数や秀品が増加し、品質向上、増収に期待ができるといった点が挙げられます。

この特徴を踏まえ、岩槻地区の枝豆生産者4名（ハウス栽培1名、露地栽培3名）の7圃場で、作付け時期をずらしながら施用試験を行いました。試験では圃場を慣行区とハーモザイム施用区（以下：試験区）にわけ、開花が始まった頃、試験区にハーモザイム1000倍液を10aあたり100Lの割合で散布しました。収量調査では各区10株ずつランダムに採取し、莢を3粒以上、2粒、1粒、不稔・未熟の4種類に分け、それぞれ重量、莢数、出荷規格である2粒数以上の割合を比較しました。

結果といたしまして、開花時期4月下旬～5月中旬(収穫時期5月下旬～6月中旬)の5圃場については重量比113%～148% 莢数比105%～144%、2粒数以上の割合比が109%と増収・秀品の増加がみられましたが、開花時期6月以降(収穫時期7月以降)の2圃場について増収・秀品の増加がみられませんでした。この結果を踏まえますと、枝豆にハーモザイムを散布する場合は、気温が不安定な4月下旬～5月中旬に開花する作型で最大限効果が発揮されることが言えます。

枝豆に限らず、果菜類の着果や落花が気になる方は、ぜひハーモザイムをお試しください。ハーモザイムは各地区営農経済センターまでお問い合わせください。

